



Fig. 8. *Cordyceps consumpta*. Left: Habit sketched by Kobayasi  $\times 1.2$ .  
Right: Original figures drawn by E.H. Atkinson.

ることが出来た。子実体は堅く、頭部を破壊することなしに1部をかき取ることは困難を感じたので、ルーペによってスケッチする程度に止めた。寄主の頭部より2本の子実体が出て、1本は少々屈曲し、頭部の先は裸で尖り、他は直伸して上半が切断されていた。Cunningham が鏡検のため切取ったところらしい。寄主の下半も切損していた。菌全体が暗灰褐色で頭部表面には不明瞭ながら細かい粒状突起 (ostiola) が認められた。Lloyd が簡単に本菌を紹介して居る。

□H. N. Krishnamoorthy: **Gibberellins and Plant Growth.** Vinod kumar for Wiley Eastern Limited, J. 43A South Extension 1, New Delhi 110049, India. 1975. 356頁, ¥6,100。ジベレリンは植物ホルモンとして各方面に利用されており、その数も約50種が知られ更に毎年その数を増しつつある。このジベレリンに関する文献も毎年莫大な数に上っているが、未だ1冊にまとめられたモノグラフが無いために非常に不便であった。本書はこの要望に答えたもので、ジベレリンの化学に始まり、生合成、代謝、植物の種子、根、幼芽および花に対する作用、その作用機序等の生理作用を12章に分けて、主に米、英、加各国のそれぞれの専門家が執筆したものである。ジベレリンの研究者にとっては大変便利な書であると云える。ただ難を云えば紙質の悪いことである。

(吉岡一郎)